

「きんぐにんにく」

環境のための解体木くず処理をきっかけに生まれた「ゆめ育土」、その「ゆめ育土」から生まれた「きんぐにんにく」。
災害復興をきっかけに生まれた「きんぐにんにく」は、町おこしに役買っています。



野坂さんときんぐにんにく

阪神大震災からゆめ育土

「倒壊した道路や建物、たぐさのけがら、それはもう言葉にできないような壮絶な光景でした。いまでも当時のことを思うと胸が痛みます。空が煙だらけなのを見たときに自分も自然のため、環境のために何か出来ることは無いかなと考え始めたんです」

11年前の阪神大震災のときに、ボランティアとして現地で活動した野坂時夫さん（水巻町商工会副

会長）はそう話します。

そのときの気持ちを行動に移すため、解体木くず限定の産業廃棄物処理の請け負いを始めました。その後、国土交通省からの依頼で、河川敷の刈った草を引き取るようになり、焼却処分するだけでなく、それを何かに利用できないかと考えて出来たのがゆめ育土です。

ゆめ育土とは小さく破砕した草に発酵促進剤を混ぜて、1年半から2年ほど発酵させて作った土壌

改良材。肥料や連作で土がやせてしまったのを元気にする効果があるそうです。



ゆめ育土

きんぐにんにく町おこし

環境のために考え出したゆめ育土。その過程で野坂さんは大きな出会いをします。

「今から4年くらい前になるんですが、環境問題をとらして日本樹木リサイクル協会の副会長で木材会社の社長の飯森さんと出会ったんです。その飯森さんがきんぐにんにくを作っていて、「おおっこれだ」と思いましたね」

当時、町の商工会では町おこしと次代を担う経営者の育成のために「チャレンジショップ夢工房」と「農産物直売センター」を町内に作る計画をしていました。

「水巻町にはこれといった特産品がないでしょう。だから、「ゆめ育土」を使って「きんぐにんにく」を作る、そしてそれを「夢工房」で売れば、これはいい町おこしになるかもしれないと思いました」



農産物直売センター

「きんぐにんにく」を初めて見た人はビックリしますよ。まるで玉ねぎみたいってね」野坂さんはうれしそうに話します。

こうして飯森さんの承諾をうけ、野坂さんのきんぐにんにく作りと町おこしが始まりました。



きんぐにんにくからできた製品

「今は商工会の女性部や、いも娘会といった人たちがこのにんにくを使ってドレッシングや味噌、しょうゆなどを作っています。お中元などでも東京や岡山から注文が入ってきていますね。でも、この「きんぐにんにく」での町おこしはまだ始まったばかり。いつかは「きんぐにんにく」といえば水巻町」と言われたいですね。まあ商売的には採算が合わないですがね」と笑う野坂さんの顔はとてうれしそうでした。

特産物になりつつある「きんぐにんにく」、皆さん一度「賞味ください」。

●問い合わせ

水巻町商工会（水巻町頃末北）
☎093（201）7551